

千葉大学大学院看護学研究院附属

看護実践・教育・研究 共創センター

Collaborative Center for Development of Nursing Practice,
Education and Research

2023-2024



CHIBA
UNIVERSITY

センター長 ご挨拶



看護学研究院附属
看護実践・教育・研究共創
センター長
わずみ よしこ
和住 淑子

当センターは、看護学が独自の教育研究分野を確立しつつあった昭和50年代半ば、看護系大学の教員等、看護学分野の調査研究に従事する者、指導的立場にある看護職員の共同利用に供することを目的として、1982年4月に千葉大学看護学部へ付置センターとして設置されました。おかげ様で、設置から40年が経過し、2022年11月には40周年記念の看護学教育シンポジウムをオンラインで開催することができ、500名を超える方々のご参加をいただくことができました。新名称「看護実践・教育・研究共創センター」も皆様の中で定着しつつあることを、嬉しく思っております。

設置当時の社会情勢に鑑み、当初組織は、継続看護研究部・老人看護研究部・看護管理研究部の3研究部構成でした。その後、急速に進展する少子高齢化社会とその看護ニーズに応える看護ケア開発を促進するため、老人看護研究部をケア開発研究部と改称しました。さらに、保健・医療・福祉制度の改革に伴う看護職者の役割拡大に関わる政策研究やキャリア開発を促進するため、看護管理研究部と継続教育研究部を発展的に統合し、政策・教育開発研究部が発足しました。

2021年、看護学研究科が看護学研究院へと改組され、教育組織と教員組織を分離する組織改革が行われました。以降、当センター固有の教員組織はなくなり、コア・メンバーを中心とする看護学研究院全教員が、委員会を組織し、教育・研究・社会貢献およびFD活動の一環として、センター事業に参画するようになりました。これを機に、学内教員のみならず、学外の看護系大学教員・看護管理者も事業に参画する体制を整備しました。これにより、センター事業にかかわる人材のすそ野が一気に広がりました。

このように、時代の変化に合わせて組織の形を変えながら、人間でいえば、「四十にして惑わず」の不惑の年を過ぎました。「社会が期待する看護の価値の創造に向けて、実践－教育－研究をつなぎ、利用者との共創のもと、全国の看護系大学および地域の関連施設の機能の充実・発展を目指す」という当センターの目的に向かい、当センターを利用してくださる皆様が相互に響き合いながら、惑うことなく創造的な取り組みを続けていくことを支援する拠点でありたいと思っております。皆様のご活用をよろしくお願いいたします。

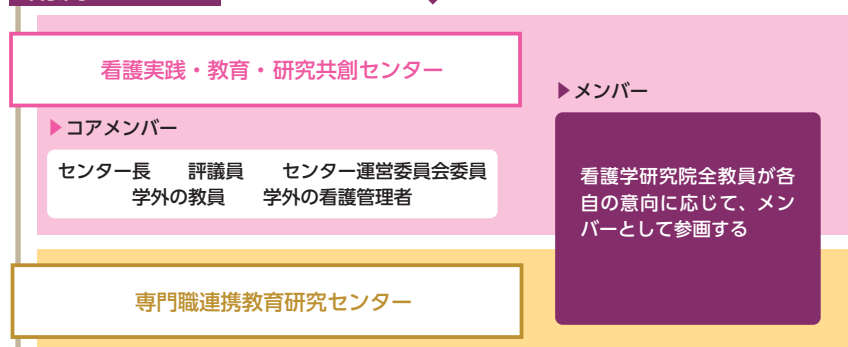
～千葉大学大学院 看護学研究院とのつながり～

令和3年4月より千葉大学大学院看護学研究院は、教育組織と教員組織を分離する組織改革を行いました。これにより、当センターにおいてもセンター固有の教員組織はなくなり、看護学研究院全教員が、教育・研究・社会貢献およびFD活動として、附属センター事業に参画するようになりました。「実践－教育－研究をつなぐ」というセンター理念のもと、事業にかかわる学内教員のすそ野を広げると共に、学内のみならず学外の教員・看護管理者の方にもコアメンバーとしてご活躍いただく体制となりました。多彩な方々との連携、協働を深めることで、今年度刷新しましたピア・コンサルテーションによる「課題解決型研修」において、個別課題に応じた専門性の高い支援教員の選択とマッチングを可能とし、質の高い教育支援の実現につなげて行きたいと思っております。

教員組織



附属センター



千葉大学大学院看護学研究院の多彩な教員が、
コンサルテーションやアドバイザーとして活用可能となった新体制。
学外の教員・看護管理者と共にセンター事業を運営、企画します。

センターの基本理念

実践－教育－研究をつなぐ

当センターは、1982年(昭和57年)、調査研究、専門的研修等を行うとともに、看護系大学の教員等、看護学分野の調査研究に従事する者の利用に供することを目的として設置されました。センターの基本理念である『社会が期待する看護の価値の創造に向けて、実践－教育－研究をつなぎ、利用者との共創のもと、全国の看護系大学および地域の関連施設の機能の充実・発展をめざす』の実現を目指し、生涯学習支援を主体とした看護の向上に向けた事業を行っています。

センターの名称を変更しました！

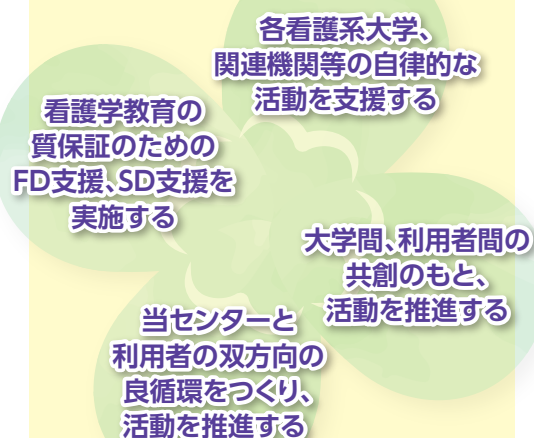
－『共創』に込めた思い－

「看護実践研究指導センター」として、39年間、皆様の温かいご支援のもと活動を継続して来ましたが、この度、センター名称を新たにしました。2021年4月より『看護実践・教育・研究共創センター』へ変わりました。

感染症がもたらした大きな社会変革、時代の変化に応じて、これまでの知識提供型の研修事業の在り方を抜本的に転換し、「利用者相互のピア・コンサルテーション」を軸に、新事業を展開してまいります。

ピア(peer)とは、同じような立場や境遇、経験等を共にする仲間を表し、教わる－指導する関係を排除して、目的を達成するためお互いの力を出し合って、看護の知を新たに創出し続けていこう、との思いが込められています。

センターの基本方針



センターリニューアルのコンセプト

時代の変化に即した
看護イノベーションの
創出に向けて

当センターでは、地域で人々のLife(生命・生活・人生)を支える自律的看護職を輩出するために、看護学教育の継続的質改善に取り組んでいます。



①看護系大学教員が見つめるエレメント

自己の立ち位置を多面的に見極めることができるように、視野に入れるべき要素と要素間の関係性、関係性の壮大な広がり の範囲を表しています。



②継続的質改善を実現する思考過程を螺旋的に歩む

すぐにどうしたらよいのかと解決策を考えるのではなく、この現状が過去の如何なる経緯の積み重ねによってつくりだされてきたのか、そのプロセスを振り返る。これを繰り返す中でありたい姿が見えてくるようになる。ピア・コンサルテーションが刺激する思考過程と繰り返しによる発展(螺旋)を表しています。

センター事業 ① 研修事業

FD支援

- 看護学教育シンポジウム
- 看護系大学教員向け課題解決型研修
- Webセミナー
- オンデマンドコンテンツ
- 看護系大学への個別支援

SD支援

- 看護管理者および中堅看護者向け課題解決型研修
- オンデマンドコンテンツ

利用者は最先端の情報や課題を持ち寄り、当センターは必要なニーズを把握、事業の計画と運営を行います。特に課題解決型研修では目的を共有し、利害関係のない研修参加者がグループワークを通して、相互に刺激し支援し合うピア・コンサルテーションを展開します。当センターと利用者の双方向の良循環を作ると共に、利用者相互の関係構築・発展をファシリテートしています。

社会の変化に伴い看護職に期待される役割の変化

看護系大学の急増に伴う実習施設・教員の質的・量的不足

各大学が特徴を生かし学生の多様性に対応して持続的に機能するための自律的な教育のCQIへの支援不足



生涯学習支援



生涯学習支援

地域の関連
医療・福祉
施設

共創

実践

機能の充実・発展

問題解決・組織変革

自組織・自身の潜

自組織の見

社会が其
看護の価値の
教育・研究・実



人々の健康
暮らし

センター事業 ② 情報発信・ネットワーク化

- 健康支援の質を左右する重要情報を蓄積し、看護実践・看護学教育の改善に活用可能なデータベースの構築
- センター研修を通じた人的ネットワークの構築を支援
- センターの実績、研究成果を利用可能な資源として発信

看護実践・教育・

センター事業 ③ 共同研究

- 研究1. 教員としての教育観とその背景にある組織のあり方を考える
看護学教員向けFDコンテンツの開発と評価
- 研究2. 組織の現状を踏まえた研修企画を支援する方法の開発

意欲・動機の高まり

在的能力に気付く

見方が転換

期待する
創造に向けて、
実践をつなぐ

と地域での
を支援

教育
研究

全国の
看護系大学

共創

機能の充実・発展

AI, IOTが当たり前となる時代に、人間中心のテクノロジーを使いこなす新たな健康支援方略を解明

各施設(教育機関・医療機関)の課題解決の軌跡が可視化され、組織の改善や変革の方向性の見定めが可能となり、人間中心の社会実現を促進

急増する看護系大学の教育内容の改善効果により、社会ニーズに即した医療人材を育成

研究共創センター

活用可能な情報・資料



当センターで実施した事業成果である各種コンテンツをホームページからダウンロードが可能です。左のQRコードからホームページ画面「活用可能な情報・資料一覧トップ」にアクセスしてご活用ください。
主なものの一部を下にお示しします。

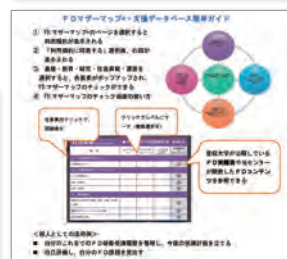
FD・教育活動 FDマザーマップ® Ver.3及び支援データベース

看護系大学教員に必要な能力のうち、特に看護に特化した能力を網羅的に示したもので、「基盤」「教育」「研究」「社会貢献」「運営」の要素からなります。組織としてFDの課題を見出す、体系的なFDに向けて整理する、個人の能力を各自が評価するためにも使えます。

使用してもらいながら、見直しを行い、現在、Ver.3を掲載しています。

FDマザーマップ®の特長やさまざまな活用方法、FDコンテンツ、FD実績表を掲載しています。

FD実績表は、登録している看護系大学が実際に行ったFDの実績の記録を掲載しています。公開されている他大学のFDの企画は、自大学のFD企画のヒントになります。



FD・教育活動 FDコンテンツ

FD研修に活用できるコンテンツを各種掲載しています。



看護実践 組織変革型看護職育成支援データベース

国公立大学病院副看護部長研修における参加者の実施したプロジェクト実践報告書をデータベース化し、公開しています。この実践報告書は、執筆者の承諾を得て公開しており、多様な取り組みを検索することができます。

課題解決プロセスデータベース(利用者限定)

研修を受講された皆様の課題解決の軌跡をデータベース化し、問題解決のヒントとしてご活用いただけるよう随時更新していきます。

事業実績

センター開設から40年以上にわたり、研修で得られた知見を他分野での研修に活かし、実践—教育—研究をつなぐSD、FD支援を提供してきました。時代の変化と共に看護職の活躍の場も広がり、異動や昇進を契機にセンター研修を繰り返し受講された方も少なくありません。センターの活用実績は、看護職者延べ9,215人になります。

事業実績(昭和57年度～令和4年度)

(単位：人)

	共同研究者		教育機関の研修受講者		保健医療機関の研修受講者		計
1982 (昭和57)年度 ～ 2020 (令和2)年度	●センター共同研究	576	●看護婦学校看護教員講習会	569	●センター研修(現任者向け)	281	
	●センタープロジェクト研究	320	●FD企画者研修	30	●センターテーマ別研究研修	89	
			●看護学教育ワークショップ(全日程)	1,605	●国公立大学病院副看護部長研修	335	
					●看護管理者研修／ 国公立大学病院看護管理者研修	3,038	
					●看護学教育指導者研修	548	
					●認定看護師教育課程	313	
	計	896	計	2,204	計	4,604	7,704
2021 (令和3)年度	●センター共同研究	27	●看護学教育ワークショップ(全プログラム)	12	●課題解決型研修	51	
			●課題解決型研修(看護系大学教員向け)	33	(看護管理者および中堅看護者向け)		
	計	27	計	45	計	51	123
2022 (令和4)年度	●センター共同研究	6	●看護学教育シンポジウム	558	●課題解決型研修	56	
			●課題解決型研修(看護系大学教員向け)	28	(看護管理者および中堅看護者向け)		
			●webセミナー	496	●webセミナー	244	
	計	6	計	1,082	計	300	1,388
	合計	929	合計	3,331	合計	4,955	9,215

※2021(令和3)年度実績外の利用者：看護学教育ワークショップ(講演のみ)104名 ※2022(令和4)年度実績外の利用者：webセミナー その他5名

看護学教育シンポジウム

令和4年度はこれまでの看護学教育ワークショップを看護学教育シンポジウムにリニューアルし「激動の時代における看護系大学教員の次世代育成」をテーマに開催しました。

プログラム構成

- 教育講演「コロナ後に求められる社会の
変革を視野に入れた大学教育のあり方」
- シンポジウム「看護系大学における
『Society5.0』時代を見据えた次世代育成」
- web セミナー「看護系大学における教育
の質保証と今後の課題」

《看護学教育シンポジウム》参加者の声

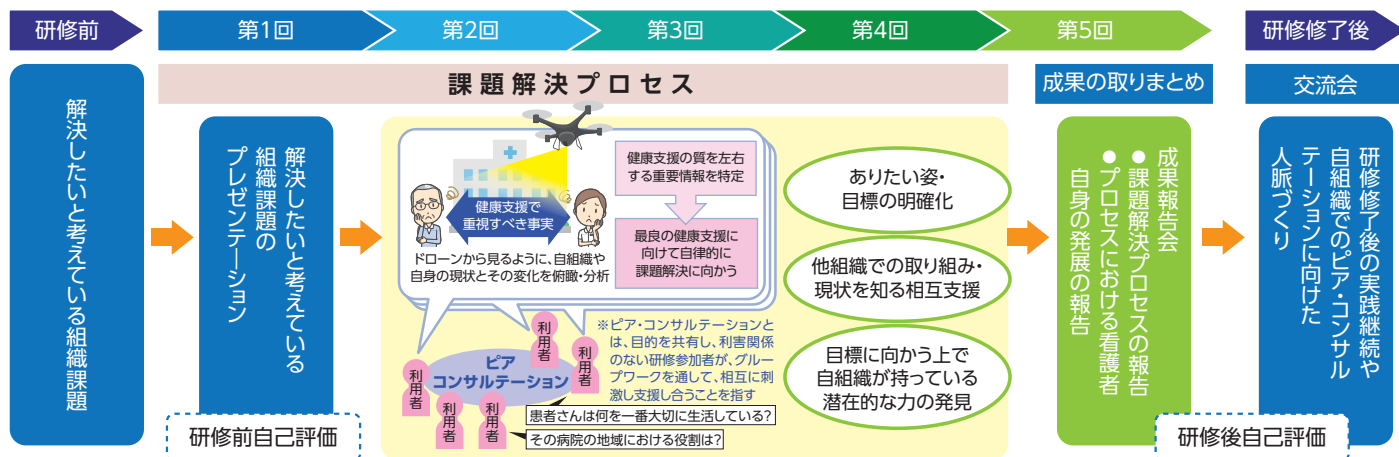
未来の看護学教育に向けて、私たちの教育方法について考えて行くこと、かなりエネルギーがいますが、「ワクワクしながら」無理しない自分にできることから始めて行こうと思いました。

教育の根本的な概念について再確認し、Society5.0社会の看護大学生にどのように教育を行っていけばよいのか視点を明確にすることができた。どの先生のお話も大変興味深く、これをもとに身近な教員たちと続きを話したいと思うような内容であった。多くの教員に視聴してもらいたい内容だった。

課題解決型研修

本研修は、解決したい組織課題を有する全国の《看護系大学教員》および《看護管理者および中堅看護者》を対象に、8カ月にわたって5回のグループミーティングを行いながら、ピア・コンサルテーションによって調和的課題解決を支援する出力型の研修です。オンライン研修のため、移動を伴う対面研修では難しかった遠方からの参加が可能となりました。

プログラム構成



《看護系大学教員向け研修》参加者の声

回を重ねるごとにグループメンバーの取り組みが、どんどん変化していると感じました。職位や大学を超えて利害関係のないメンバーが意見交換することで、他のメンバーの経験や考え方を知り、自分を振り返ることができました。

たった2時間程度の時間の中でも似たような境遇の先生とは、直接的な解決は出来なくても、話をするですっきりできると感じました。

大学により、問題の質や大きさも全然異なると感じました。

《看護管理者および中堅看護者向け研修》参加者の声

様々な病院で自分と同じように自部署の悩みや問題に取り組んでいる方々と話ができて、励みになった。

一見すると違う課題のようにも見えるが、グループメンバーそれぞれの課題の方向性は類似している点が多くあり、課題達成への過程において参考になるものが沢山あると感じた。

すぐに解決策を出そうとするとところがあり、もっと問題がどこにあるのかを多面的に考えるようにしないといけないと思いました。議論をすることが良い刺激になります。

web セミナー

令和4年度は「看護のエビデンスを施策推進に結び付けよう」というテーマでwebセミナーを開催しました。800名近くのお申込みがあり、関心の高いテーマであることを実感しました。

参加者の声

日本の将来像をよく考えて新たな看護・医療をデザインする必要がより高まってきている時代であり、診療報酬で評価され普及される確かな看護技術を創出し、費用対効果を含めて評価し、論文として世界に発信できる次世代の育成の重要性を認識しました。

現状を変えたいと思ったことは、現場から関連の大学や学会に発信して協力してエビデンスとしていくことが必要であると感じました。個人ではできないことも、身近な団体と協働することで、何かを変えられるかもしれないと希望の持てる内容でした。

学内コアメンバー紹介(令和5年4月1日現在)

地域創生看護学講座	教 授	諏訪 さゆり(研究院長)
看護政策・管理学講座	教 授	和住 淑子(センター長)
高度実践看護学講座	教 授	眞嶋 朋子
	助 教	仲井 あや
高齢社会実践看護学講座	准 教 授	黒田 久美子
文化看護学講座	准 教 授	斉藤 しのぶ
専門職育成学講座	教 授	中山 登志子
看護政策・管理学講座	特任教授	島田 陽子
	准 教 授	錢 淑君
	講 師	飯野 理恵
	講 師	高木 夏恵

看護学教育研究共同利用拠点

千葉大学大学院看護学研究院附属 看護実践・教育・研究共創センター



Collaborative Center for Development of
Nursing Practice, Education and Research

詳しくはホームページをご覧ください

センターURL <https://www.n.chiba-u.jp/center/>

〒260-8672 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL 043-226-2464(千葉大学亥鼻地区事務部総務課総務第三係)

センターメール: kango-cqi@chiba-u.jp



[亥鼻キャンパスへのアクセス]

JR千葉駅下車 東口7番バス乗り場より
「千葉大学病院行き」または「南矢作行き」のバスに乗りし
「千葉大看護学部入口」下車

英文パンフレット

